後志地区

新規就農者紹介



佐々木さんと平飼い養鶏の様子

2026年８月取材

Eggsh蘭越農場
佐々木 善康 さん（蘭越町）

就 農 年：2024年4月
経営形態：平飼い養鶏、水稲
養　　鶏：「岡崎おうはん」と「名古屋コーチン」を約400羽
水　　稲：「ゆめぴりか」と「ななつぼし」を約3.5ha

【 就農のきっかけ 】

出身は北海道南部の森町ですが、転職を機に蘭越町に移住しました。転職先では農業や酪農体験等の観光事業に携わり、ガイドやコーディネートなどの業務を通じ、幅広い人脈を築きました。その中で、以前から関心のあった平飼い養鶏を営む農業者と出会い、養鶏に関する知識や技術を学びました。これを機に、同町での就農を決意しました。

蘭越町で新規就農するなら、町の特産品である「らんこし米」の栽培に取り組みたいと思い、2022年４月から２年間、稲作を営む農業法人黒川農場で研修を受け、水稲に関する知識や技術を幅広く学びました。その後、同町の稲作農家から農地や農業機械を第三者継承できたことから、水稲と養鶏で就農を開始しました。両立には苦労もありますが、冬期間の収入が限られる北海道において、通年で収入を得られる養鶏との組合せは、安定した経営を目指せることに加え、継続的な雇用の創出にも強みを感じています。

【 工夫している点（養鶏の飼料づくり）】

鶏の飼料は自家配合飼料で、日本一のこだわりを持って製造していると自負しています。主原料には米を使用し、その他の原料は、かぼちゃ、にんじん、牡蠣殻等を、地元の商店やコミュニティ、にんじん選果場、蕎麦店、豆腐店から、ご厚意により無償で提供いただいています。そういった規格外野菜や端材、出汁がら、おからに加え、蘭越町の契約農家で栽培をしている赤しそ「下阿達（リモチーソ）」を独自に発酵させて配合しています。

このような地域資源の有効活用により、食品ロスの削減に貢献するとともに、環境に配慮した持続可能な養鶏の経営を実践しています。さらに、一般的な配合飼料に比べて飼料コストを大幅に抑えることで経営の安定化を図り、高付加価値な卵の生産につなげています。

「岡崎おうはん」



自由に動ける環境で飼育しています

「名古屋コーチン」



【 一日の流れ 】

作業は毎朝5時頃から、おおむね20時頃まで続きます。

5時
・地域の揚水機場ポンプの操縦
・田んぼの水回り確認

9時
・鶏への給餌、水やり
・鳥獣被害の確認

11時
・集卵、卵の選別、精米等の作業

13時
・あぜ草刈り等のほ場管理作業

17時
・鶏への給餌、水やり
・電気柵の通電、北海道犬を配置

【 販売は“作る前に売る”を意識 】



年間契約以外に、農園前でも、こだわりの卵や米を販売中です。

生産した卵や米は主にホテルや飲食店へ販売しており、現在は供給が需要に追いつかない状況が続いています。個人向けには前払方式による年間契約も導入し、キャッシュフローの安定化につなげています。また、農産物を生産するだけでなく、自ら販路を開拓しています。お客様の声を聞きながら商品の魅力を伝えるなど、前職で培った営業力を農業経営にも生かしています。

【エ夫している点（鶏を守るために）】

引き取り手のない北海道犬を里親として迎えた当初は、番犬とする予定はなかったものの、鶏舎周辺で飼育するうちに、鶏を害獣の被害から守る頼もしい存在となりました。過去にはキツネの侵入により約100羽が被害に遭いましたが、現在は、キツネ以外のアライグマやタヌキ等の害獣も近づきにくくなるなどの侵入抑制の効果がみられます。



日本原産の犬種を守るという使命感をもって、北海道犬のブリーダーもしています。

現在は８頭の北海道犬を飼育しています。

【 地域との関わり合いの重要性 】

蘭越町観光物産協会の理事として、農業体験イベント「我が家の田んぼ１年プロジェクト」にも携わっています。田植えや稲刈り体験だけでなく、稲わらを活用した、しめ縄づくりまでを一連のプログラムとして実施し、参加者へ農業の魅力を伝えています。その他、消防団の活動や揚水機場の管理にも携わるなど、積極的に活動に参加し、地域の発展に貢献していきたいと考えています。



【 今後の展望 】

今後は、鶏の飼養羽数を５千羽規模とすることを目標に掲げ、まずは３千羽規模への拡大を目指し、新鶏舎の整備を考えています。また、ペットフード事業や食鳥処理施設の整備、農業法人化なども視野に入れています。将来的には通年雇用を生み出し、地域に若い人が定住できる環境をつくりたいと考えています。さらに、農業研修生を受入れ、次世代の育成にも取り組んでいます。そして日本一の平飼い養鶏を実現したいと考えています。

【 就農を目指している方へのアドバイス 】

新規就農者は経営知識が不足していることが多く、安定した経営を実現するためには、生産技術に加え、経営管理や経営戦略についても学ぶことがとても重要です。

また、新規就農者は就農地や販売先を自分で選べることが大きな強みです。そして、何より大切なのは健康です。安定して長く続けられる農業を目指してほしいです。